

大学が運営するサテライトラボを通じた 住民意向の調査

松田 楓¹・星野 裕司²・圓山 琢也³・柿本 竜治⁴

¹学生会員 熊本大学大学院 自然科学研究科

(〒860-8555熊本県熊本市中央区黒髪2丁目39番1号)

Email: 170-d8824@st.kumamoto-u.ac.jp

²正会員 熊本大学准教授 くまもと水循環・減災研究教育センター

(〒860-8555熊本県熊本市中央区黒髪2丁目39番1号)

Email: hoshino@kumamoto-u.ac.jp

³正会員 熊本大学准教授 くまもと水循環・減災研究教育センター

(〒860-8555熊本県熊本市中央区黒髪2丁目39番1号)

Email: takumaru@kumamoto-u.ac.jp

⁴正会員 熊本大学教授 大学院先端科学研究部

(〒860-8555熊本県熊本市中央区黒髪2丁目39番1号)

Email: kakimoto@kumamoto-u.ac.jp

熊本大学では「熊本復興支援プロジェクト」の一環として、熊本地震で最も被害が集中した益城町にサテライトラボ『熊本大学ましきラボ』を設置し運営している。その『ましきラボ』は益城町の秋津川自然公園内に設置されており、住民が気軽に立ち寄り教員や学生と意見交換するオープンラボや、そこで得られた住民の意見を活かしたイベント等を行っている。また、地震発生後に益城町が策定する復興計画に関する意見を聞くための住民意見交換会などが益城町主催で行われ、ここでも住民の意見が得られた。そこで本研究では『ましきラボ』を通じて得られた住民意向を整理し、益城町主催の意見交換会で得られた住民意見などと比較分析を行う。

Key Words : *Mashiki Lab, Kumamoto earthquake, residents intention, satellite lab, comparative analysis*

1. はじめに

(1) 背景と目的

平成28(2016)年4月14日及び16日に熊本を震源として発生した平成28年熊本地震では二度の最大震度7を観測し、人身並びに家屋等に壊滅的な被害を与えた。その中でも特に被害が大きかった熊本県益城町では、地震発生後に益城町が策定する復興計画^{1), 2), 3)}に関する意見を聞くための住民意見交換会などが行われた。しかしながら、意見交換会だけでは時間に制限があるため、限られた数の意見のやり取りしか行われず、行政が住民の声を十分にすくいあげることが出来ているとは言い難い状況であった。

復興まちづくりを進めていくにあたり、住民の声をできるだけ多く取り入れていくことは重要であり、意見交換の場や機会を持つことは必要である。そこで熊本大学は同年6月14日に「熊本復興支援プロジェクト」を立ち上げ、その中の取り組みの一つとして地域の将来像を描

く支援を行う『熊本大学ましきラボ』(以下、ラボ)を位置づけた。また、町が7月6日に出した「復興計画方針」にも行政と住民を繋ぐ役割としてラボを位置づけている。10月19日に開所式が行われ、行政、住民また大学が繋がる場が設けられた。

そこで本研究では、『ましきラボ』を通じて得られた住民意向を整理し、益城町主催の意見交換会で得られた住民意見と比較分析することを目的とする。

(2) 研究対象

本研究の対象であるラボは、熊本県益城町の秋津川河川公園内に設置されており⁴⁾(図-1)、名称や住所等の基礎情報は表-1に示す通りである。

なお、本研究の対象期間は地震が発生した平成28年4月14日から包括的連携協定調印式が行われた平成29年4月12日の活動までとし、設立までの経緯と活動内容をまとめた年表を本文末尾の表-10にて示す。

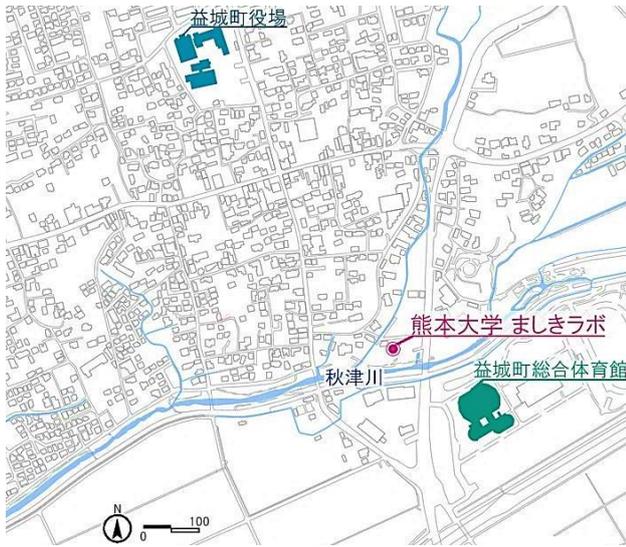


図-1 『ましきラボ』の位置

持続可能なコミュニティを創出・支援する場の構築

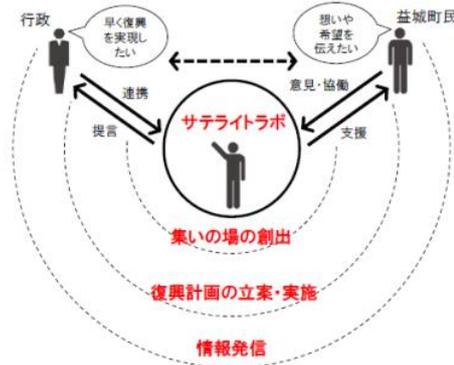


図-2 『ましきラボ』, 住民, 行政の
関係性

ような役割を果たすことで、集いの場の創出や、復興計画の立案・実施を図っていくことが期待されている(図-2)。

表-1 『ましきラボ』基礎情報

名称	熊本大学ましきラボ
住所	熊本県上益城郡益城町大字寺迫44-3地先
敷地面積	331.47 m ²
建築面積	29.52 m ²
建蔽率	8.91 %
延べ面積	29.52 m ²

2. 『ましきラボ』の概要

(1) 設立までの経緯

熊本大学では6月14日に産官学の総力を結集し、熊本復興を早期実現することを目的に、「熊本復興支援プロジェクト」⁹⁾を始動させた(表-10, 17)。地域の声をもとに、研究者の発意による復興プロジェクトを再編集し、原田学長を総括リーダーとし、松本理事・副学長と柿本教授を副総括リーダーとして復興プロジェクトチームを結成した。このチームには全部で8つのプロジェクトがあり、国・県・市町村、国内外の大学・研究機関、経済団体等と連携・協力して復興を推進していくことが考えられている。各プロジェクトの分野として、水環境、阿蘇自然災害、被災文化財、産業復興、地域医療支援、ボランティア活動支援、プロジェクト技術支援、震災復興デザインなどが挙げられている。これらの中で、復興の現場で熊本大学の専門家が住民と対話しながら、地域の将来像を描く支援を行っていくことを主旨とした「震災復興デザインプロジェクト」の活動の一環として、ラボが設置されることが決まった。ラボは復興支援プロジェクトの中で、持続可能なコミュニティを創出・支援する場として位置づけられた。さらに早く復興を実現したい行政と想いや希望を伝えたい住民の間に入り、潤滑剤の

(2) 活動実績

10月19日に西村町長、原田学長などを迎え開所式を行った(表-10, 43, 44)。住民意見交換会で収集できなかった意見や対応できなかった意見を拾い上げるための活動として、ラボでは10月22日より毎週土曜日の14:00~17:00にオープンラボを行うことを決めた。オープンラボでは教員と学生がそれぞれ2, 3名ずつラボで待機し、来所者から様々な意見を聞き、議事録にして管理している(写真-1)。

ラボでは住民意見交換会で出された意見を反映したイベントも行っており(意見の全体については第4章にて記述)、「勉強会の開催」に関しては、12月3日の14:00~16:00に「赤井火山と布田川断層のひみつ」と題して、熊本大学の長谷中教授によるミニ勉強会を行った(表-10, 71)(写真-2)。ミニ勉強会の終了後は、毎週のオープンラボと同じように来所者と会話をし、ミニ勉強会についての感想を聞いた。「勉強する機会がなかなかないのでこういった会を開いてくれるのはありがたい」や



写真-1 オープンラボの様子

「大変勉強になったので今度は別の分野の勉強会を開催してほしい」といった意見が寄せられた。

また、ミニ勉強会の他にもラボ主催で行ったイベントである福田地区まち歩き、クリスマスイベント、また益城復興さくら祭りについて述べる。

先ず12月24日に福田地区で行ったまち歩き(表-10, 81)について、イベント実施までの経緯と当日得られた成果について述べる。このまち歩きイベントは、オープンラボに来所した住民発案のイベントである。地震が来た今だからこそ、住民皆で力を合わせてまちづくりをしたいと思っているが、どうしたらいいのかわからないためラボに相談に来た。そこで活動のキックオフとして、福田地区を対象としたまち歩きを実施することになった。ま

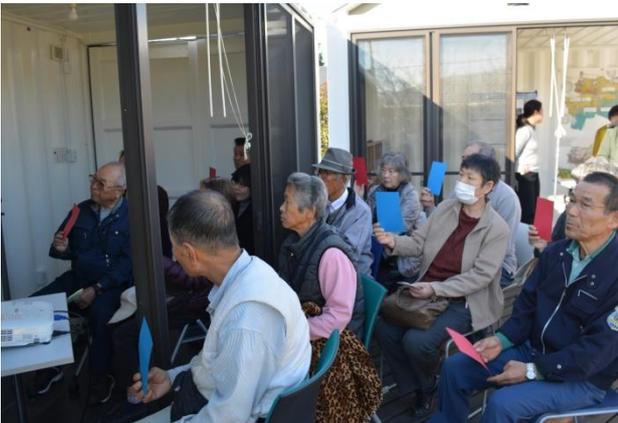


写真2 ミニ勉強会の様子



写真3 まち歩きの様子



写真4 振り返りの様子

ち歩き当日は住民、役場、熊本大学から計29名が集まり、3つの班に分かれて2時間程度のまち歩きを行った(写真-3)。歩いている最中に参加した住民からは、「地震が起きた後はなんとなく近寄っていなかった場所の現状を知れた」という意見や、「久しぶりに誰かと話しながら歩くことが出来た」などの意見を得た。まち歩き終了後は公民館へ戻り、振り返りを行った(写真-4)。対象地区の白地図に歩いてみて気が付いたこと、知ることが出来た情報などを班ごとに書き込んでもらい、情報共有を図った。最後には、振り返りシートの記入をお願いし、今後の福田地区まちづくりのための意見を収集した。このシートからは「参加が多く、皆さんと一緒にいろいろな話をしながら歩けたことが楽しかった」という意見や「益城町に住んでいながら知らない事や場所が多く、参加してよかった」という意見などが得られた。

外部からの支援として、ソラシドエアからの依頼で12月25日にクリスマスイベントを行った(表-10, 85)。益城町の幼稚園、保育園へ広報をし、幼稚園児、保育園児を対象とした企画が実施された。これには約100人の参加が見られた。

また4月1日と2日の11:00-17:00に益城復興さくら祭りと称し花見イベントを行った。上記のクリスマスイベントは企業と合同で行ったが、このさくら祭りは地域住民或いは地元団体と行おうと考え、いち早く復興屋台を立ち上げた「まちづくり益城」と合同で行った。なぜ地元こだわったのかという理由には、クリスマスイベントの反省として、住民が来客者となっており、このままではラボが地元根差したものにならないのではないか、という意見が挙がったからである。イベント当日は2日間で2000人以上もの来客があり、ステージや物産展、子供向けのイベントブースなど様々な催し物を提供した(写真-5)。その中でましきラボではオープンラボの延長として、「ましき思い出地図作り」を行った(写真-6)。これは、これから実行される復興計画に対し、残してもらいたい場所や地震以前の思い出などを付箋に記し、場所が分かるように白地図に貼ることで、参加者全員で一



写真5 さくら祭りの様子



写真-6 思い出地図作り

つの地図を作るイベントである。参加者から多くの思い出が集まった地図は、今後もラボに置いておくことを予定している。

3. 行政による復興計画についての意見収集

益城町では7月6日に出された「益城町震災復興基本方針」¹⁾(表-10, 22)を基に7月28日から8月20日まで、町の全地区を対象とした、第一回住民意見交換会が行われた(表-10, 23)(表-2)。この意見交換会は、復興計画策定に向けて益城町が全住民を対象に、基本方針の説明、計画策定の進め方の説明、さらには復興に関する意見の収集を行うことが主旨である。本章では筆者が参加した第一回住民意見交換会で得られた意見を以下のように分類し詳しく分析する。

意見に対応する実行者として「住民」「住民と行政」「行政」の三つに分け、さらにいつ実行するかとして「短期」「長期」の二つの時期に分けた(図-3)。その後類似した意見を分野ごとで括り、どのような意見が何個出ているのかを把握することで住民のニーズに関する傾向を掴む。その結果、各項目の主な意見と意見数は表-3のようになった。最も意見数が多かった「行政」と「短期」では、「制度・政策」や「補助金・費用」に関する意見が多く挙げられた。次に「行政」と「中長期」では、道路拡幅などの「ハード系の復興」が最も多く挙げられた。これらの結果から、発災から3~4ヶ月の住民のニーズは行政に対して向いていることが分かる。行政が取り決めた「制度・政策」や「補助金・費用」に関して改

善を求める意見や今後行政も取り組んでいく「ハード系の復興」に関しての要望が多く集まった。しかしその中で、「勉強会の開催をして欲しい」という意見や、「益城町に住みたいと思えるまちづくりをしたい」という、住民が主体で活動出来るような意見も見られた。

4. ましきラボによる意見収集

(1) オープンラボ

(a) 来所者属性分析

オープンラボでの来所者の記帳と、得られた意見を議事録にまとめており、これらを基に特徴をまとめていく。

表-2 第一回住民意見交換会日程

校区	対象地域	日程	時間	場所
飯野	赤井, 木崎, 上砥川, 中尾, 中砥川, 五楽, 下砥川, 新川, 下鶴, 飯田, 本土山, 土山, 下原, 小池秋永, 東無田, 櫛田	7/28.木	18:30-20:30	益城中学校
	広崎1.2町内	7/29.金	18:30-20:30	
	広崎3.4.5町内, 小峯	7/31.日	18:30-20:30	
	古閑, 福富	8/1.月	18:30-20:30	
	惣領1.2町内	8/2.火	18:30-20:30	
	惣領3.4町内	8/3.水	18:30-20:30	
	馬水北, 馬水南	8/4.木	18:30-20:30	
木山	安永1.2町内	8/6.土	18:30-20:30	益城中学校
	安永3.4町内	8/8.月	18:30-20:30	
	下寺中灰塚, 寺迫上町, 下町, 蛸子町, 市ノ後宮園, 辻団地, 市ノ後団地, 辻の城団地	8/10.水	14:00-16:00	
福田	宮園, 辻団地, 市ノ後団地, 辻の城団地	8/11.木	14:00-16:00	文化会館
	畑中, 谷川, 福原南内寺, 川内田, 田中柳水, 袴野, 平田上平田中, 平田下, 平田西黒石崎, 平田境	8/18.木	18:30-20:30	
津森	上陳, 堂園, 杉堂上小谷, 下小谷, 田原寺中, 北向, 下陣	8/19.金	18:30-20:30	文化会館
全地区	各地域に参加できなかった住民	8/20.土	18:30-20:30	



図-3 第一回住民意見交換会の分析結果

表-3 項目ごとの主な意見と意見数

	行政	行政と住民	住民
中長期	・都市づくり ・インフラ ・誘致 (56個)	・益城に住みたいと思えるまちづくり ・益城についてのPR ・益城に若い人々を巻き込む (13個)	・コミュニティの再建 (2個)
短期	・被害状況 ・情報共有問題 ・公費解体 (92個)	・勉強会の開催 ・避難指示が住民全体に伝わる仕組みづくり ・危機管理意識 (16個)	・自分たちで出来ることはやりたい (3個)

先ず来所者属性について述べる。平成 28 年 10 月 22 日から平成 29 年 4 月 8 日にかけてのオープンラボへの来所者の延べ人数は 208 名で、複数回の来所者を除いた実質人数は 133 名である。また、益城町内の来所者の延べ人数は 89 名、実質人数は 43 名であり、益城町外の来所者の延べ人数は 119 名、実質人数は 102 名であった。益城町内の来所者と益城町外の来所者の、複数回来所者の割合を比べてみると、益城町内が 51.7%、益城町外が 14.3%と益城町内の方が高いことが分かる(表-4)。以上を踏まえ考えられるのは、益城町外には他大学や企業などが含まれており、単発での来所者が多いことである。一方で益城町内は複数回来所する常連の住民が数名いることが、数字に影響していると考えられる。また、来所者全体に占める益城町内の来所者の割合が 42.8%、益城町外が 57.2%と益城町外の占める割合がやや多くなってい

るため、市外や県外の大学、企業はメディアやラボの facebook を見て来所することがほとんどである。さらに県外からの益城町視察の際にラボに立ち寄る団体も多く、ラボの情報発信が大きく影響していると言える。

(b) 来所者意見分析

次にオープンラボで得られた来所者の意見について述べる。得られた意見数は全部で 991 個あり、それらをカテゴリーごとに大分類、中分類、小分類を設けて分類し、さらにいつのオープンラボで出されたものなのかが分かるように表-5 にまとめた。また表-6 はその他を除いた各分類の概要と意見数をまとめたものである。

先ず「ましきラボ」について、時間軸で意見数を見てみると開所当初は少ないが、メディア等で多く取り上げられた影響で認知度が上がり、その後ラボの意見数が増加している。内容として、初めての人からはラボがどの

表-4 来所者属性

	町内														町外					小計	計			
	赤井	平田	小池	辻の城	宮園	寺迫	惣領	安永	馬水	杉堂	木山	福原	古閑	テクノ	町役場	熊本市	他大学	企業	市外			県外	不明	
10月22日			1	1		2									4	1						1	5	
10月29日						1				1					3	1						1	5	
11月5日	1	1		1	1										5				2	4		6	11	
11月12日		1													1	1	1	2				1	6	
11月19日		1				2									3	2	6			1	2	11	14	
11月26日		1													1	3				1		4	5	
12月3日	4	1		1	2	2	2	1	2					2	17	4						4	21	
12月10日		1						1							2	1	6					7	9	
12月17日		1		1					1						4	1	4	2				7	11	
12月24日					1	2									4					1		1	5	
1月7日															0							0	0	
1月14日						2									2	1			1			2	4	
1月21日						2				1					3	1			1			2	5	
1月22日						2									2	2	5	1				8	10	
1月28日		1				2		1		1					5	2	2		3			7	12	
2月4日		3			1	2	1			3	1		1		12	2	1	1	8			12	24	
2月11日						1						1			2	2			1			3	5	
2月18日						1				1					1	3		3	1			4	7	
2月25日		1		1		2	2			1					7	1	3	1	1	25		31	38	
2月26日				1							2				3	6	2					2	8	
4月8日													3		3							0	3	
小計	5	12	1	6	6	22	6	3	3	1	9	1	4	3	7	89	27	20	16	9	43	4	119	208
実質人数	5	3	1	5	6	2	6	3	3	1	4	1	3	2	6	43	13	20	16	6	44	3	102	145
複数回来所者の割合																51.7%							14.3%	30.3%
来所者全体との割合																42.8%							57.2%	

表-5 オープンラボで得られた意見の分類別意見数

大分類	ましきラボ	被災				復興				その他	計	
		自然災害	住宅	心理	肯定的	否定的	復興計画全体	道路拡張	まちづくり			
10月22日	1		6				6	1			6	20
10月29日		20	7			6	4	1			4	42
11月5日	4		4	2			3	1	3		6	23
11月12日	6		3			1	2		2	6	1	21
11月19日			4	2			5		2		5	18
11月26日	4		2	4			1		28		3	39
12月3日	3		1	4			3	1			2	14
12月10日	1			5	1	1			2		2	10
12月17日	14			4			3	2	19		1	49
12月24日	9		21	3	2	5	4				1	65
1月7日												0
1月14日	7		7		1	5	1				2	57
1月21日	5		9	5		8	2	12			8	49
1月28日	12			4		10	4	2	8		8	48
2月4日	8		6	5		1	4		21	14	9	68
2月11日	7		14	2	2	6	1	1		12	17	62
2月18日	1		1	6							2	10
2月25日	1			7	1	5	1	10	4	1	26	56
3月4日	9		4	4		6	1		21	8	12	65
3月11日	6		2		3			1	2		19	33
3月18日	2		2	6		1					1	12
4月8日	1		2	29				9		2	1	44
計	101	95	110	12	55		45	43	110	48	186	805
総計												991

表-6 オープンラボで得られた意見の分類別特徴

大分類	中分類	小分類	概要	小分類意見数	大分類意見数
ましきラボ	ましきラボ		ラボとはどういう場所かやラボでやって欲しいことについて	101	101
被災	自然災害		地盤・地震・断層・水害などについて	95	272
		住宅	仮設住宅や家屋、建物について	110	
	心理	肯定的 良かったと思うことやありがたかったと思うことについて	12		
		否定的 不安・心配などについて	55		
復興	復興計画全体		益城町が策定した復興計画について	45	246
	道路拡張		復興計画のなかでも特に道路拡張について	43	
	まちづくり	福田地区	福田地区で行っているまちづくりについて	110	
		文化・記録	文化的建造物や震災遺構、震災の記録の仕方について	48	

ような場所であるかについて、役場やラボ Facebook より事前に情報を入手している人はラボにやって欲しいことについてが多かった。次に「被災」について中分類ごとに述べる。「自然災害」「住宅」についてはラボ開所当初から持続的に意見を得ており、今後も継続して挙げられる話題であると言える。また「心理」については、肯定的な意見よりも否定的な意見の方が多く、現在の暮らしや復興に対して不満や不安が多々あることが窺える。次に「復興」について中分類ごとに述べていく。「復興計画全体」については平成 28 年 12 月 22 日に策定された「益城町復興計画」が大きく影響していることが分かる。その理由としては策定されるまでのオープンラボでは、町主催で行っていた意見交換会についてや計画について町に再考を要請するような内容が多くあったが、策定されてからはそういった意見が減ったため意見数にも影響があると言える。一方で「道路拡張」については復興計画が策定され道路幅が公言された影響で、策定後から多くの意見が寄せられるようになった。「まちづくり」については、2 章 2 節で記述した通り平成 28 年からラボで関わっており、福田地区まちづくりは今後も継続していく予定である。「文化・記録」については、年明け頃から震災遺構や震災の記録の仕方について意見が徐々に多くなったのは、生活が落ち着いてきたことが背景にあると考えられる。そして最後にその他について補足説明をする。その他は意見数が多いが、これは外部か

らラボへ見学に来た人やラボと共同で活動をしたい人などが多く来所しその際に、所属する団体の活動内容や自己の活動内容を紹介する機会が多くこの様な結果になっている。

(2) 思い出地図

2 章 2 節で述べた益城復興さくら祭りで行った「思い出地図作り」で得られた意見について述べる。これは毎週行っているオープンラボとは形式を変えイベント形式にして行った。より多くの人に思い出を書いてもらうための工夫点を以下に挙げる。益城町外の人にも書いてもらえるように地図の範囲を益城町全域と市街地の 2 種類用意し、それぞれ 1425×1117(mm)と 1453×972(mm)の大きめのサイズで作製した。また、思い出を吹き出し型の付箋に書いてもらい、その横に丸シールを用い顔に見立てて表情を書いてもらうようにした。さらに付箋とシールは思い出の内容によって色分けするなどの工夫を行った。このイベントはフリーテーマのオープンラボとは違いテーマ性を持った意見収集の場であることから、前節で述べた意見とは異なる意見を得ることが出来た(表-7, 8)。

被災前(青)と被災後(紫)で色分けした付箋に書かれている内容を比較してみると、被災前の思い出より被災後の思い出の方が多く、熊本地震に関する思い出が印象に残っていることが分かった。また感情を表す丸シールは嬉しい(黄)、悲しい(青)、その他(緑)に色分けしたが、結

表-7 思い出地図で挙げられた思い出(益城町全域)

震災前	震災後
嫁とデートした潮井神社が忘れられません	笑店街7さん、フリン、からあげ、整体、クレープ、ラーメン、やさい、床屋さん…みんな遊びに来てね!
育ててくれた町にありがとう。小さい頃の町に戻ってほしい	ボランティア団体「支援の「わ」」お困りごとがあればお気軽にどうぞ
ほいえんでおにごっこ、たのしかった	
空港からの夜、帰り道、益城の街並みがとてもキレイ	熊本地震支援チーム「くもと友教の会」受援者数4127名、参加者数のべ783名(29.1.31時点)
平成5年、益城町の住人になりました。親子4人で暮らし、今は5人と1匹です。	くもと友教の会という素敵なメンバーに出会えた。
元気に働いていた会社があった。今はないけど楽しかったナァ〜!	元気でいたいです
へびがでた!	たくさんのボランティアの方たちに感謝。息子が、お手伝いさせてもらったことで元気をいただき、今何か考えています。
こちらの神社におまいりする心がホッとしてました。	友だちとあそびだ
	行ってみて、びっくり。一日でも早く、元の形に戻れたら、いいな!
	九ちゃん万十食べてエネルギー補給
	「チロアウト」のオムライス、おいしかったです!
	新たな出会いに感謝!!
	まつね神社、なくならないで
	はびねずの避難所で子供とあそびました!!
	くじけている時、音楽で元気をいただきました。広西OBコンサート、たくさん涙がこぼれました。ありがとう。
	「グランメッセ」こんな時こそ使いたい!
	震災後、避難した広安西小学校。先生方に助けて頂きました。ありがとうございました!
	ボランティアさんホントにありがとう。とってもうれしかったです。
	震災による環境の変化
結婚した後、子供達と一緒に家族皆で幸せにくらしていたよ。	地震の直後、この辺りの橋は段差が高くなってビックリした。
ここの焼き肉はメチャウマ!!是非お越しを!	前震の後、妻家の片付けの手伝いに大分から来て本震にいました。怖かった!近所の家もたくさんなくなってさみしい。
子供の頃、稲刈後の田んぼでいつもそんでました。これから荒れたりしないといいな...	そつえんしきなきそうだったです
益城の印の押されたあんぱんがクリームたっぷりおいしー!!	みなさんの旧小学校の思い出をたくさん聞きたいです!!
子供の頃の試合で訪れました。楽しかったなあ...	今はどの橋も通れますが、まだまだ急坂。早く直るといいですね。
ブルーの街灯が綺麗道筋がとてもきれいです。ドライブにどうぞ!	帰りたい。元の生活に戻りたい。思いは大きいけど、戻れない。新しく一歩前に進むべきだと自分に言い聞かせます。
蛍がきれいに見える、とっておきの場所です!	生まれ育った場所、父と過ごした大切な家でした。あの瞬間から私の故郷が変わりました。悲しく切ないです。
	西の方を見ると、島原まで見えてビックリ!!
	頂上は被害も大きかったけど、でもとてもキレイな景色はサイコーでした!

表-8 思い出地図で挙げられた思い出(市街地)

震災前	震災後
おじいちゃんたちがたのしかった	ボランティアの方々や友人、教え子たちとの交流が深まりありがたかった。
おじいちゃんたちがたのしかった	法事駐車場で避難した。今は若葉にいます。
初めての一人暮らしを始めたヨ～	近所の方と車中泊！
敷地内の4棟が全壊して大変悲しい。思いでさえも消えてしまいたい	周囲の家がたぶん解体されてしまったけど、またみんなで戻ってきて元気な街にしたい。
おばあちゃんの家がありました。親戚が集まる盆と正月が楽しかったです。	子供の友達が早く元の家に戻れますように
家族と過ごした日々、母と二人で過ごした日々、すべてが思い出！益城が復興するまで元気で見届けます。皆さんと共に！！	本屋さんや映画館など文化施設を充実してほしい！！
高校時代、文化コンクールで毎年来てました。文化会館復興待ってます！	今は少し落ち着きがとりもどせようとして幸せに向かっています。
お祭りで屋台がたたくん出てました。オハク屋敷で泣かされた思い出	家がなくなってもう戻れないけど、きれいな益城町になるように…
以前住んでいた所がずさずされてとてもさみしい！	いとこたちがいっしょによろこぶとかをだしてくれた。
神社や寺、川や桜、自然いっぱいの子供町…楽しい思い出たくさんある	今はボンと自分の家があるだけ。皆早く帰って来て
とまとどとポテトチップスを食べた。	雨の中、頑張ったよ(交通量調査)
子供達が元気に雪合戦しました。	花見楽しかったです！
1年前、お花見をしたよ！毎年、お花見したいです。がんばろう益城	地震で練習場所の体育館と家を残した子供達(益城中央ハレ一部)
河川敷の桜の下で花見がしたい！川をきれいに！	地震に負けないハレ一続きです。神社の境内で練習しました。(益城中央ハレ一部)
桜を見ながらお弁当を食べた。	完全復活(益城中央ハレ一部)
昨年もお花見したヨ。(益城中央ハレ一部)	
	たきだしがあつてよかった。
	じしんがあつて、いろいろなげいのうじんがきてくれてうれしかった
	地しんがあつてしばらく、学校が休みでさみしかったな～
	じしんのあとたいへんだつたけど、みんなにあつてうれしかった
	震度7を2回経験した場所
	小学校や学童にいろいろなボランティアの人たちが来てくれた
結婚して30年。ここでおじいちゃん、おばあちゃん、子ども達と笑って、泣いて、笑って。幸せなときを過ごしたわ。	益城町の景色は少しずつ変わっていくけど…思い出はずっと。これから私達どこに住むのか？復興を心より願って…
友だちと、よくおかしを買いに行つて、楽しかったな～	地しんがあつた後は、何がこつたかわからないでこわかつたなあ…
どんど焼き、皆で集まって楽しい会話！	益城復興市場・屋台村、復興の顔として頑張っています！
	やたい村に、いったことが、楽しかった。
	しょうまがたのしひな。
	一変した風景、町並み、淋しい！
	上を向いて歩こう！
	どのがつまれました
	震災後、初めて益城へ。みんなでミーティング。
	7月8日、益城中住民イキ交換会、あつた！
	深くんで通りました。早く、一日も早く元氣になつて

表-9 分類別思い出数

	益城町全域		市街地		合計	割合
	震災前	震災後	震災前	震災後		
嬉しい	14	15	16	13	58	0.624
悲しい	0	4	3	8	15	0.161
その他	1	8	0	11	20	0.215
合計	15	27	19	32	93	1

5. 結論

以上より益城町主催の意見交換会で得られた意見とましきラボの活動で得られた意見を比較分析する。町主催の意見交換会では行政主体の要望や意見が非常に多く、住民主体の意見は少ない傾向にある。一方でましきラボ活動の一環であるオープンラボで得られた意見は住民主体の意見が多い。もちろん行政に対する要望もあるが、ただ要望を言うだけではなくなぜそのように思うのか、なぜ必要と思うのかといった詳細な背景を聞くことの出来る時間が確保されていることも、意見交換会との大きな違いである。また、行政に対する要望だけでなく、益城町の復興のために自分でも何かしたいという自主性を持って来所する人が多く、復興のために活動したい人の意見や案を聞くことが出来るというのもラボの必要性の一つであると言える。さらに思い出地図のようなイベント形式で意見を収集する機会を設けることで、フリー型とテーマ型の意見収集の場を設けてそれぞれ補完し合うような活動を続けていくことの重要性を指摘することが出来る。



写真-7 ましき思い出地図

果を見てみると嬉しい思い出が最も多く全体の62.4%を占めた(表-9)。この結果と思い出の内容を踏まえると、震災に対して前向きに考えようとしている人が多いことが考えられる。しかし、参加者からこのようなイベントの際にいつまでも悲しい思い出を語っても仕方がないという諦めのような感情があるという意見を聞いた。嬉しい思い出が多く挙げられたこと背景にはこのような被災者の感情があることが分かった。

謝辞：『ましきラボ』の運営などにあたり、熊本復興支援の熊本大学関係者の方々、先生方、益城町役場復興課の方々には大変お世話になりました。

参考文献

- 1) 益城町：「益城町震災復興基本方針～未来を信じともに歩もう みんなの笑顔のために～」,2016
- 2) 益城町：「益城町復興計画骨子～未来を信じともに

表-10 ましきラボ年表

年	月	日	種	番	内容	詳細
2016	4	14	1	熊本地震前震発生	21:26に発生	
		15	2	羽藤教授益城訪問	羽藤教授が益城町に訪問	
		16	3	熊本地震本震発生	1:25に発生	
		24	4	羽藤教授益城訪問	羽藤教授が益城町に訪問	
	5	3	5	円山准教授避難所対策チーム	円山准教授が益城町避難所対策チームへ呼ばれる	
		5	6	羽藤教授益城訪問	羽藤教授が益城町に訪問	
		7	7	羽藤教授がましきラボについての資料を持参	羽藤教授がましきラボについての資料を持参	
		6	8	羽藤教授益城訪問	羽藤教授が益城町に訪問	
		9	9	羽藤教授がましきラボについての資料を持参	羽藤教授がましきラボについての資料を持参	
		19	10	羽藤教授益城訪問	羽藤教授が益城町に訪問	
	6	20	11	羽藤教授益城訪問	羽藤教授が益城町に訪問	
		22	12	ましきラボ用地候補	ましきラボ用地として5つの候補地が挙がる	
		1	13	益城町役場復興課設立	益城町役場に復興課が設立された	
		14	14	ましきラボ設置要請文書	復興課より熊本大学へましきラボ設置の要請文書が送られる	
		6	15	羽藤教授益城訪問	羽藤教授が益城町に訪問	
		16	16	ましきラボ候補地視察	ましきラボ設置の候補地を星野准教授と田中智之准教授が視察する	
		14	17	復興支援プロジェクト	熊本大学が復興支援プロジェクトをHPに公開	
		18	18	ましきラボ設置場所公開	復興支援プロジェクトHP内にてましきラボの設置場所が公開	
		20	19	ましきラボイメージ図	田中智之准教授がましきラボの平面イメージとスケッチを作成	
		28	20	ましきラボロゴの初案完成	崇城大学の飯田准教授よりましきラボのロゴの初案が上がる	
	7	6	22	益城町震災復興基本方針策定	益城町が「益城町震災復興基本方針～未来を信じともに歩もう みんなの笑顔の笑顔のために～」を策定	
		28	23	第1回住民意見交換会	益城町主催の住民意見交換会が7/28～8/20の期間で計14回開催される	
		4	24	ましきラボ用地再検討	ましきラボの用地候補の再検討がされる	
		25	25	ましきラボ設置場所に関して	星野准教授、都市計画課長、復興課長の三者によりましきラボ設置場所に関して議論される	
	8	12	26	ましきラボ設置場所確定	ましきラボの設置場所が再検討の末確定	
		30	27	コンテナ発注	相互運輸(株)へコンテナを発注する	
		6	28	復興支援プロジェクト進捗報告	復興支援プロジェクトの進捗報告会にてましきラボの現在の動きを学長、理事に報告する	
	9	9	29	グレイス熊本大学訪問	熊本大学にグレイスが挨拶をしに来た	
		30	30	確認済証	ましきラボの確認済証が通る	
		15	31	公園施設使用許可	公園施設使用許可が益城町より下りる	
	10	2	32	ましきラボロゴ決定	ましきラボのロゴが決定する	
		7	33	コンテナ設置	現在のましきラボの位置にコンテナが置かれる	
		12	34	益城町復興計画骨子	益城町が「益城町復興計画骨子～未来を信じともに歩もう みんなの笑顔の笑顔のために～」を策定	
		13	35	ウッドデッキ設置	ウッドデッキの設置が完了する	
		14	36	プレオープンイベント	田中智之研：ペンキ塗り、円山研・星野研：周辺の草刈り	
		15	37	プレオープンイベント	田中智之研：ペンキ塗り、星野研：周辺の草刈り	
		18	38	検査済証	ましきラボの検査済証が通る	
		19	39	開所式	益城町町長、熊本大学学長等呼び開所式を実施	
	11	22	40	開所式	益城町町長、区長を呼び開所式を実施	
		22	41	オープンラボ1回目	オープンラボ、来所者5名	
		29	42	オープンラボ2回目	オープンラボ、来所者5名	
		5	43	オープンラボ3回目	オープンラボ、来所者11名	
		7	44	益城町復興計画(案)	益城町が「益城町復興計画(案)～未来を信じともに歩もう みんなの笑顔の笑顔のために～」を策定	
		12	45	オープンラボ4回目	オープンラボ、来所者6名	
		19	46	オープンラボ5回目	オープンラボ、来所者14名	
		26	47	オープンラボ6回目	オープンラボ、来所者5名	
		3	48	オープンラボ7回目	オープンラボ・ミニ勉強会、来所者21名	
		10	49	オープンラボ8回目	オープンラボ、来所者9名	
	12	17	50	オープンラボ9回目	オープンラボ、来所者11名	
		22	51	益城町復興計画	益城町が「益城町復興計画～未来を信じともに歩もう みんなの笑顔の笑顔のために～」を策定	
		24	52	オープンラボ10回目	オープンラボ、来所者5名	
		53	53	福田地区まち歩き	福田地区にてまち歩きを実施	
		25	54	クリスマスイベント	ソラシドエアと共同でクリスマスイベントを開催	
		7	55	オープンラボ11回目	オープンラボ、来所者0名	
		14	56	オープンラボ12回目	オープンラボ、来所者4名	
	2017	21	57	オープンラボ13回目	オープンラボ、来所者5名	
		22	58	ミニ勉強会	オープンラボ、来所者6名	
		28	59	オープンラボ14回目	オープンラボ、来所者14名	
		4	60	オープンラボ15回目	オープンラボ、来所者25名	
		11	61	オープンラボ16回目	オープンラボ、来所者4名	
		18	62	オープンラボ17回目	オープンラボ、来所者7名	
		22	63	社会基盤設計発表	私たちの益城町復興プロジェクト	
		25	64	オープンラボ18回目	オープンラボ、来所者40名	
		26	65	ミニ勉強会	卒業研究発表会、来所者7名	
		4	66	オープンラボ19回目	オープンラボ、来所者30名	
	3	11	67	オープンラボ20回目	オープンラボ、来所者12名	
		18	68	オープンラボ21回目	オープンラボ、来所者7名	
		69	69	平田オリザさんと"かたる"～小さなマチの新しい未来～	平田オリザさんと"かたる"～小さなマチの新しい未来～	
	4	1	70	さくら祭り	サクラキャンパス、サクラマルシェなどを開催	
		2	71			
		8	72	オープンラボ22回目	オープンラボ、来所者18名	
		12	73	包括的連携協定調印式	益城町と熊本大学の包括的連携協定の調印式	

- 歩もう みんなの笑顔のために～」,2016 論文集,Vol49,No.3,pp783-788,2014
- 3) 益城町：「益城町復興計画(案)～未来を信じともに歩もう みんなの笑顔のために～」,2016 5) 国土地理院基盤地図情報：http://www.gsi.go.jp/kiban/(2016/7 現在)
- 4) 浜田麻里奈,後藤春彦,山村崇：「テーマ型カフェを媒介とする地域活動ネットワークの展開に関する研究ー国分寺市カフェスロとその団体が関わる地域イベント活動に着目してー」,日本都市計画学会 都市計画 6) 熊本大学 HP.熊本復興支援プロジェクト：http://www.kumamoto-u.ac.jp/syakairenkei/sangakukan/fukkoproject/index(2017/1 現在)

(?受付)

SURVEY ON RESIDENTS' CONCERNS THROUGH SATELITE LABORATORY OPERATED BY UNIVERSITY

Kaede MATSUDA, Yuji HOSHINO, Takuya MARUYAMA, Ryuji KAKIMOTO

The Kumamoto University set up and operate a satellite lab "Kumamoto University Mashiki Lab" in Mashiki town, as part of the "Kumamoto Reconstruction Assistance Project".

Mashiki town is the place where the damage was the most concentrated in the Kumamoto earthquake.

We are holding the open-lab where residents casually drop in and exchange opinions with faculty and students.

And we are holding events, taking advantage of the opinions of the residents. Also, Mashiki town organized residents' opinion exchange meeting here to listen opinions on reconstruction plan after the earthquake. Therefore, in this research, we will organize the residents' intentions gained through Mashiki-Lab and compare and analyze these and the residents' opinions obtained in the opinion exchange meeting organized by Mashiki town.